

民児協 あこう

広げよう 地域に根ざした 思いやり

第45号 平成26年 秋号



善意にありがとう

イオン赤穂店



民生委員児童委員行動宣言

1. 安心して住み続けることができる地域社会づくりに貢献します。
2. 地域社会での孤立・孤独をなくす運動を提案し行動します。
3. 児童虐待や犯罪被害などから子どもを守る取り組みを進めます。
4. 多くの福祉課題を抱える生活困難家庭に粘り強く接し、地域社会とのつなぎ役を務めます。
5. 日頃の生活を活かし、災害時に要援護者の安否確認を行ないます。

全国民生委員児童委員連合会



民生委員児童委員会 各地区活動報告

御崎地区 「御崎幼稚園運動会」

10月4日秋晴れの空の下、御崎幼稚園運動会が開催されました。この日は園児85名が全員参加。演技の中では園児一人一人が主役であり、そのひとつひとつの力が大きな力となって、会場の応援と合わせ演技を作り上げていました。年少児の演技は「魔法」がキーワードとなっており魔法の宅急便に使用されている楽曲に合わせて可愛い演技を見せてくれました。年長児は力強いお兄さん・お姉さんらしい演技で、特によさこい「獅子のたてがみ」は見てたえのあるものでした。



赤穂地区 「敬老会」

赤穂地区は各自治会単位で敬老会を行いました。その内の山手町は9月13日に集会所で敬老者23名が参加されました。お世話は自治会役員、民生委員、推進委員でおもてなしをしました。演目は踊り、歌、マジック、歌謡ショーが有り美味しい食後はビンゴゲームを行い、全員で楽しく過ごしました。トピックスとしてテニスの錦織選手が話題になり、テニスボールを配付しました。



坂越地区 「楽しかった敬老会」

坂越地区では9月15日に全地区が敬老のお祝いをしました。私達の下高谷地区も参加者17名（下高谷15名、高谷団地2名）で鼓会の演芸（歌、踊り、皿廻し、他）を見せて頂き、手拍子しながら「次は何が見られるかな？」と心うきうき。楽しい数時間を過ごす事が出来ました。来年もこの笑顔が見られますように！

城西地区 「お変わりありませんか！」

城西地区では、夏場の安否確認として各民生委員と福祉推進委員が、ひとり暮らし老人、高齢者世帯295名を対象に友愛訪問を8月上旬に実施しました。その結果、みなさんの元気なお声を聞き安心すると同時にこれからも「お身体を大切に」という一声かけ、活動の重要性を現場で感じました。



高雄地区 「敬老会」

晴天の下の9月15日、123名の参加者を得て地区敬老会が、盛大に執り行われました。挨拶、祝辞、橋寿記念写真の贈呈と続き、妙正寺、鹿多証直住職のお話を聞き、全員で童謡を大合唱し、大いに盛り上がりました。園児、児童の演技もあり、楽しい一日でした。我々民生委員・推進員も揃いのユニフォームで参加。最後に全員でピースサインをして写真におさまり、来年の再会を誓い合いました。



塩屋地区 「今年も、ようおこし」

塩屋地区では9月14日に地区合同の敬老会が塩屋小学校（体育館）で実施されました。この会場で出席された御老人に会うと笑顔がほころび「お世話になります」の言葉がうれしく「これからもお元気で」と心から念じております。



有年地区 「敬老会」

有年地区では、9月13日から15日で各自治会に於いて「敬老会」が行われました。東有年では、自治会館に47名という多くの出席者がありました。アトラクションでは、有政智子さんによるマジックを眼を輝かせて見たり、ビンゴゲームで数字をめくるたび歓喜の声や溜息がでるやら、みなさん楽しみました。昼食をしながら、わきあいあいと世間話をしたりカラオケなどで、笑顔がたえない一日を楽しく過ごされました。

尾崎地区 「尾崎盆踊り大会に参加」

今年も福祉連絡会による恒例の冷えたラムネ、炊き込みごはん販売の出店に協力させて頂きました。毎年のことですが、炊き込みごはん、ラムネは売切の状態も多くの方より来年もお願いしますの嬉しい言葉。これからも地域の方に喜んでもらえるよう福祉活動にガンバッテいきます。



老人部会 「平成26年度百歳記念品贈呈」

老人部会より百歳以上の方を対象に記念品をお渡し致しました。それぞれで本人に直接お祝いの言葉を添え記念品をお渡しし、大変喜んでいただきました。



御崎地区 神吉巳之司様

西部地区 「地域の安全安心と児童とのふれあいを」

西部地区では、広島市の集中豪雨による土石流災害を教訓に、地域の安全・安心を守る為の情報支援の一環として、ひとり暮らし老人、高齢者夫婦、及び、要援護者の名簿を整理いたしました。西中学校（1年目）、西小学校（4年目）の、コミュニティ・スクール校への取組に協力をしていきます。☆写真は二学期を前に、草刈奉仕作業（西小）



躰（しつけ）は仕付け系で

躰とは仕付け系のようなものだという話を聞きました。

裁縫で仕付けをしていないとどこを縫えばいいのか迷ってしまいます。子育ても、子どもの自主性を尊重すると言って自由気ままに育てると、どんな人間を目指せばいいのか方向が定まらず、社会で調和する自立した人間には育ちません。

反対に、ミシン目のように細かく押さえつけて一部のほころびもなく道筋をつけてしまうのも考えものです。子どもの気持ちを無視して「ダメ!」「～しなさい!」と怒り、子どもの将来を全て決定してしまうと、子どもは息苦しくなり反発するか、自分一人では何も決められない、判断能力が劣る人間になってしまいます。

“躰はやさしく語りかけるように何度も言い続けて、できるまで待つ”

頭ではわかっているけどイライラが積もり、時には爆発して理不尽な行動をとることもありますね。人間だから。

そんな時は、言う側言われる側のどちらも心が傷ついています。双方が冷静になるのを待って、親のプライドを捨て、小さい子はぎゅっと抱きしめて「ゴメンね」と謝りましょう。そして、何があっても「あなたを愛してる」「あなたを信じてる」と伝えましょう。



くつしたを脱がせている介助犬

最近、盲導犬が何者かに刺されてけがをしたとか、フィギュアスケートの安藤美姫さんが介助犬のPRをした補助犬（盲導犬、介助犬、聴導犬）に関するニュースがありました。補助犬がどういった犬なのか一般の人にはあまり知られていません。私達、赤穂市の民生

委員児童委員は先日、長野県にある日本聴導犬協会を訪問し、聴導犬、介助犬について障がいのある方への補助方法などを実際に見ながら研修させていただきました。日本聴導犬協会では主に捨てられた犬の中から候補犬を選んで聴導犬、介助犬を育成する「動物福祉」と、聴導犬・介助犬を無料で貸与、無料でアフターケアをする「障がい者支援」をしているが、活動を寄

付などの支援で行っているため、書き損じはがき、使っていないテレカ、切手、商品券などがあれば協力願いたいとのことでした。東日本大震災の後で、災害時の意思疎通役としての聴導犬の役割が増すなど補助犬の普及が進められている今、訓練され、ユーザーの指示に従い仕事をしようとしてくれているため、刺されても鳴き声を我慢した盲導犬の記事を

あなたの耳になるワン

読み分けなくなりました。障がいのあるユーザーの身体の一部として活動できるように私たちも一層の理解と支援をしていきたいと思っています。



目覚ましの音を知らせる聴導犬

編集後記

今年各地で大きな災害が発生しています。民生委員児童委員としても見守り活動を通じて種々の災害などの想定が必要かと思えます。地域社会のつなぎ役として活動している様子を少しでも多くの方に知っていただけるよう「民児協あこう」の編集を進めさせていただきます。

広報部会